

2018 年度 湘南藤沢学会「研究助成基金」成果報告書

15th International Conference on Music Perception and  
Cognition(ICMPC15)

における

「Beat Synchronization Predicts Language Disturbance  
in Patients with Schizophrenia」の研究発表

慶應義塾大学 環境情報学部 4 年  
加藤彩

### 1.活動日程・会場

日程：2018 年 7 月 23～27 日

会場：カナダ モントリオール コンコルディア大学

### 2.活動の目的

本研究は、カナダのモントリオールで開催された 15th International Conference on Music Perception and Cognition (以下 ICMPC15)において「Beat Synchronization Predicts Language Disturbance in Patients with Schizophrenia」というテーマで発表を行うことを目的とした。この ICMPC は、音楽の知覚認知の研究分野において重要な意味を持つ国際学会である。2年に1度開催され、今回行われた第15回はグラッツ(オーストリア)、モントリーオール(カナダ)、シドニー(オーストラリア)、プラタ(アルゼンチン)の4カ国の拠点において同時開催という形で行われた。これは世界各国で研究を行っている研究者たちがより近い拠点で発表や議論を行うことができるようにするために設けられたシステムによるものである。本学会は、世界各国で音楽に関する最先端の研究を行っている研究者が多く参加するので、学会参加は自分たちの研究について他の研究者から意見をもらったり、ディスカッションを行ったりする絶好の機会となり、今後の研究の発展に大きく寄与することができると思われた。

### 3.活動の成果

「Beat Synchronization Predicts Language Disturbance in Patients with Schizophrenia」というテーマで発表を行った。統合失調症患者は言語性学習

や記憶など広範な認知領域における機能障害を示すと言われており、また、音楽の知覚に異変があるという報告もあるものの、統合失調症患者の音楽リズム同期能力と言語性学習についての研究は未だ行われていない。そこで、本研究では、統合失調症患者の音楽リズム同期能力と、言語性学習を中心とした臨床症状評価尺度の関連性について調べた。

発表は様々な研究者や音楽療法士など、音楽と医療に関わる様々な方々が聞きにきてくださった。発表時間内外に関わらず、様々な分野を専門とする研究者とディスカッションを行うことができた。音楽知覚の神経基盤についての研究を行っている人もいれば、演奏家の身体科学を専門にしている人もいて、今まで気に留めなかった視点からの意見をもらうことができた。また、他の研究者が行っている最先端の研究についての研究発表を聞くことで、自分たちが扱っている研究の方向性や、新しい研究テーマについてのインスピレーションを受けることができた。

#### 4.今後の展望

今後は、本学会で受けたフィードバックやディスカッションを元に、研究を進めていく予定である。具体的には、さらに多くの被験者について実験と解析を行うこと、論文化に向けた準備を進めること、音楽リズムトレーニングが統合失調症の症状緩和に貢献できないか検討を進める、など多岐に渡る。今回得ることができた貴重な経験を元に、有意義な研究活動に繋げていきたい。

#### 5.謝辞

本学会参加に際し、資金の援助をしてくださった湘南藤沢学会に深く御礼申し上げます。